

川西まちなかテラス整備

第3回川西町にぎわいづくり検討委員会 第2回ワークショップ まとめ

■今回のワークショップの内容

テーマ①「年間を通じた誰もが気軽に立ち寄れる施設機能や施設運営の在り方」

先進地視察研修報告「新潟県三条市 図書館等複合施設『まちやま』」

テーマ②「先進地視察研修を受けて取り入れたいアイデア」

〈実施概要〉

日時：2023年9月24日（日）
 場所：川西町役場 庁舎3階 大会議室
 参加者：にぎわいづくり検討委員のみなさん（14名）
 渡部 桂 氏 東北芸術工科大学教授
 （メインアドバイザー・検討委員長）
 小池 拓矢 氏 株式会社鈴木建築設計事務所設計戦略室長
 （設計アドバイザー）
 伊東 優 氏 ツキノワ合同会社代表社員
 （設計アドバイザー）
 川西町政策推進課（3名）

〈タイムスケジュール〉

13:00～13:30 開場・受付
 ～13:36 検討委員長あいさつ
 ～13:50 前回WSのまとめ
 ～15:15 WS（前半）
 自己紹介・グループワーク（テーマ①）・発表
 （休憩）
 ～15:30 先進地視察研修報告
 ～16:15 WS（後半）
 自己紹介・グループワーク（テーマ②）・発表
 ～16:30 まとめ
 検討委員長の総評



「施設機能」や「運営の在り方」を検討



グループで考えを共有



「まちやま」への視察研修の報告



「取り入れたい」アイデアを共有



「出来る!」、「したい!」のアイデア出し



グループごとに発表

■テーマ①「年間を通じた誰もが気軽に立ち寄れる施設機能や施設運営の在り方」

○グループワークⅠ前半（個人ワーク）

自分自身が「利用者」となって具体的な運用を検討！

- ・ 場所は！？ ⇒ ホワイエ or 調理室 or 親子ルーム
- ・ 利用目的は！？ ⇒ テレワーク、料理教室、ゲーミング、サークル活動、
子供の遊び場、イベント観戦 等
- ・ いつ使う！？ ⇒ 平日は9時～18時、19時以降
休日は10時～12時、15時～17時
※平日、休日とも2時間程度の利用
- ・ 人数は！？⇒ 5人～20名程度（最大100名程度）
- ・ 予約方法や利用料は！？ ⇒ 原則予約不要で、無料で使える。予約が必要なときは
電話の他、スマートフォン等の専用アプリで予約。
- ・ 何が必要！？ ⇒ Wi-Fi環境、大型モニター、子ども用遊び道具（持ち運びできる
もの）ハンモック、ボルダリング、絵本、音響資材 等

○グループワークⅠ後半（グループで）

- ・ 事務局からアイデアを出してもらいたい部屋を指定 ⇒ 今回は「ホール」
- ・ 個人ワークをベースに、グループでアイデアを「共有」

部屋・空間: ホール

グループワーク1のまとめ

- ・「ホール」での日常的な使い方を検討
- ・個人ワークでの考えをグループで共有

【利用者(ユーザー)】

70才男

60代~80代
~~女性~~

20代
30代

子連れ
家族

【アクティビティ(活動)・目的】

・小規模(人数10人)
サークルの茶会
・茶会(毎月)

100才体健
1日1回利用

子供の遊び場

ヨカ
(健康!!)

子ども
と遊ぶ

【曜日や時間】

(「平日 or 休日」「利用時間帯」「1回あたりの利用時間」)

平日(夜)
休日(朝)

2時間

10:00~
4:00

和坊
休日

9:00
~18:00

1~2
時間

10:00
~17:00
毎日

【利用人数】

100人以内

10人弱

4~5人

【利用方法「予約方法」「利用料金」】

予約
方法
(予約と同様)

TEL

Tel
予約

無料

予約
不要

インターネット
TEL

無料

【必要な備品や道具】

遊具
(家に持ち込む)

■ 「先進地視察研修報告 三条市図書館等複合施設『まちやま』」

○ 『まちやま』のポイント

1. まちなか交流館「ステージえんがわ」

- ・ 30～40代の子育て世代をターゲットにすることで、子ども（孫）が高齢者（祖父母）を連れてくるようになった。
- ・ 高齢者は弁当を持ち込み、ずっとその場に居て良い仕組みにした。

2. 指定管理者「ツクール・ド・さんじょう」

- ・ **2者共同**の指定管理者による運営（図書館等運営の株式会社+にぎわい創出のNPO法人）とし、単なる施設管理ではなく、運営・経営が求められている。
- ・ 施設運営・経営にあたり、半径300mから活動を掘り起こした。さらに、人の紹介でさらに情報を集めた。

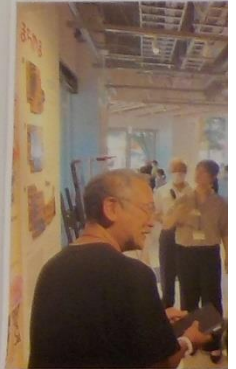
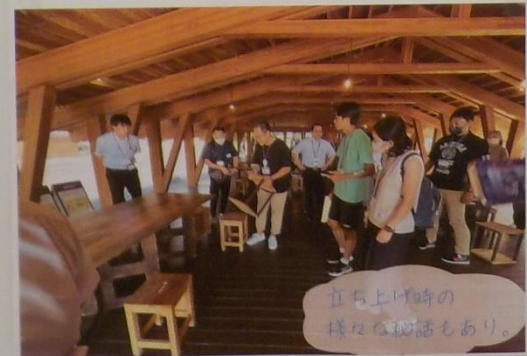
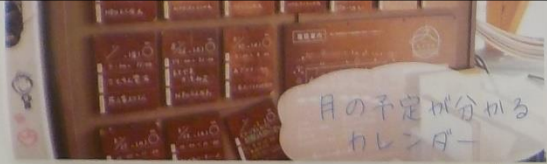
3. 年間イベント「300件」

- ・ **年間300件のイベント**があり、まずは土着のイベントを調べた。
- ・ イベントを開催するにあたり、「チラシ」を撒いた。
（SNSより効果あり）
- ・ 地域おこし協力隊がイベント企画を考えることもある。
⇒ 協力隊の活動が街に広がっている。

ステージえんがわの概要

- ・誰もが明るく、楽しく、元気よく、健康に暮らしていただけるまちづくりの拠点
- ・気軽に立ち寄り、思い思いの時間を過ごせる自遊空間
- ・えんがわカレンダーで「イベントを周知」し、参加者を募集

ステージ えんがわ

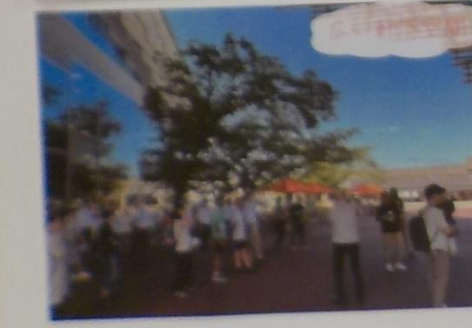
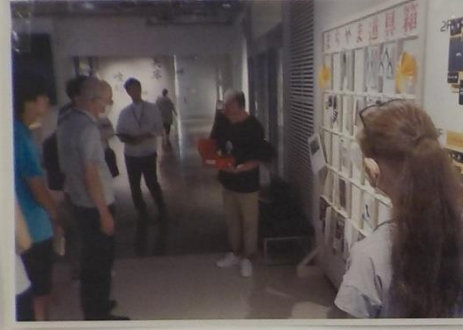
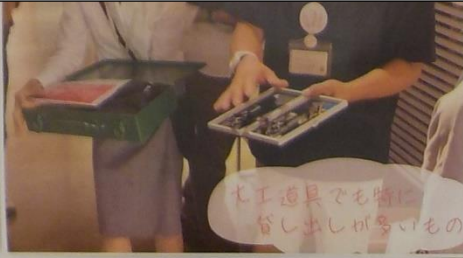


まちやまの概要

- ・旧三条小学校跡地に図書館機能の他、鍛冶ミュージアムと科学教育センターを併設
- ・市民の教育及び文化の発展並びにまちなかのにぎわい創出に寄与することが目的

まちやま

(科学教育センター・鍛冶ミュージアム)



■テーマ②「先進地視察研修を受けて取り入れたいアイデア」

- 「まちやまの運営」や「にぎわい創出の手法」について、「これなら出来る！」もの、
「出来るかわからないけど、したい！」ものをアイデアとして出してみる

「これなら出来る！」

【運営のこと】

- ・勉強会
- ・えんがわカレンダー（予定の見える化）
- ・サークル活動、町内イベントの紹介（募集チラシ）

【にぎわい創出のこと】

- ・こまつ市（毎月）、落語会（毎月）
- ・春夏秋冬まつり、キッチンカー祭り
- ・防災食事会
- ・キャンプの研修
- ・特産品の展示
- ・300mのまち歩き（トレジャーハント）
- ・コンサート（ピアノ発表会）
- ・手作りのワークショップ（DIY）

「出来るかわからないけど、したい！」

【運営のこと】

- ・回遊型イベントの拠点として
- ・夜遅くまでの開館
- ・まちづくり団体の設立（2者以上の共同事業体）
- ・まちづくりのための助成金
- ・企業との連携（企画力・運営力）

【にぎわい創出のこと】

- ・こまつ市との連携（コラボ飲食店）
- ・コンビニ、移動販売
- ・グランピング
- ・多くのイベント
- ・夜のビアガーデン
- ・昼間カフェ（ケータリング）
- ・遊休ストック（空き家）の活用

「まちやまの運営」や「にぎわい創出の手法」で

1 班

「これならできる！」もの

「できるかわからないけど、したい！」もの

「これならできる」もの

総合ミーティング

勉強会

300m
お散歩
(トビヤ
イベント)

イベントの
見える化

DIY
ワークショップ

掲示板
集客

「できるかわからないけど、したい」もの

運営主体(若者)
夜遅くまで開館

まちやまの やりたイベント
ための 助成金

飲食
(業者見つけ出し)

倉庫 活用
(4-21-1)
夜間 イベント
高層町の活用
のイベント開催

まちやま
団体の
設立

回遊型
イベントの
拠点

遊休ストック
(空き家)
の活用

グループワーク2のまとめ

- ・取り入れたいアイデアを出して、日常的に人が集まる仕組みづくりを検討
- ・出来るかわからないけど、工夫すれば出来るかもしれないことをみんなで共有

■第2回 WS まとめ①

○主な意見

- ・ **地域おこし協力隊等の外部人材にも携わってもらうと、なお良いでは。**
- ・ **にぎわいを創出するイベントを継続していくためには、お金を稼げる団体になる必要あり（NPO 法人等）**
- ・ **施設の利用状況（貸館状況）は、町内他施設と情報共有し、状況が分かる仕組みが必要**
- ・ **利用料金は、町内 or 町外、営利 or 非営利等、用途によって変える必要がある。**
- ・ **イベントは、まず地元の人（町内の人）に来てもらいたい。PR は SNS も大事だが、学校から子供たちに配布される紙媒体のものが効果的**
- ・ **必ずしも大きなイベントである必要はなく、少人数のイベントでも良い。**

■第2回WSまとめ②

○メインアドバイザーより総評

1) グループワーク1前半

これからできる拠点施設の日常利用の姿を想定しようという作業。様々な利用スタイルが見えてきた。何度も想定する機会を持ち、よりよい運営のための情報や条件を事前に洗い出すことが今後も求められる。

2) グループワーク1後半

特に多様な利用が考えられる「ホール」について、利用内容を想定する作業。様々な利用希望があることが見えてきたが、空間の棲み分けなど運用方法や利用のルールを今後整理してゆく必要がある。

3) 先進地視察研修の報告

視察内容を振り返りつつ、参加できなかった方と情報共有。充実した地域拠点が営まれるポイントは、様々な立場から居心地の良さを作ること、意欲的な施設の管理運営を行うこと（またその担い手がいること）、地域との連携が肝であることを学んだ。

4) グループワーク2

先進地視察の学びから具体的に応用できそうなことを議論。視察で視点が広がり、施設利用の方法だけでなく、施設の管理運営や地域経営の観点がより深まった議論だった。

拠点施設を中心に地域の活力を高めるには、その中や周辺で行われる活動が育つ必要があり、それには施設運営がしっかり関わりながら場所や人をマネジメントすることやコーディネートすることが求められる。